



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

2025. 2 月号

鹿児島ワイズメンズクラブ No. 410

国際会長：A. Shanvaskhan [インド] より良い世界のために、共に
Together for a Better World

アジア太平洋地域会長：Joan Wong [香港] 大きなインパクトを起こそう
Make a Great Impact

西日本区理事：鶴丹谷 剛 [神戸クラブ] つなげよう地域と世界 YMCAとともに
Connect Local and World with YMCA

九州部部长：大崎 隆 義 [熊本むさしクラブ] 始めからもう一度



みつかる、つながる、よくなっていく

鹿児島クラブ会長 新内 博之

1月新年例会報告

鹿児島クラブ 中堀 清哲

1月定例会は1月28日(火)にホテルタイセイアネックスに於いて新年会形式で開催されました。今回は新内会長の発案で、「旧会員やワイズに関係する様々な方々に声掛けをしてお誘いしましょう。」ということで熊本から大崎九州部部长(熊本むさし)、田上九州部事務局長(熊本むさし・アジア太平洋地域大会実行委員長)をはじめ、他に7名のゲストがお越しく下さいました。懐かしいお顔は山下さん、中松さんの旧会員、活動のリーダーさん達でした市川さん、成瀬さん、11月に卓話をいただいた永森さん、そして山口ワイズのご親友の高木さん、上之園さん方です。美味しい食事を戴きながら会話が弾みます。自己紹介を兼ねての各自トークは「短めに！」とお達しがあつたにもかかわらず、皆さん饒舌に(アルコールのせいかな)話されました。懐かしさも相まって再び『つながり』が出来ました。楽しく、賑やかな新年例会となりました。

鹿児島クラブにとりましても、素敵な1年のスタートだったと思います。



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



みつかる、つながる、よくなっていく

新型コロナウイルス感染拡大に直面した人類史において、インターネットによるネットワーク社会向上は私たちの生活や常識に大きな変化を与えました。リモートワークという概念が誕生し、ウェブ会議が一般化され、まさに離れていても「つながっている」ということが可能な社会となり、携帯電話の普及と同様に、いつでもどこでもつながってしまう、プライベートな時間を確保することが困難な時代になったとも言えるでしょう。また「会う」ということにいちいち理由が求められる時代になったとも言えます。出張に行く際にも、ウェブ会議で済む仕事なのか、直接いかなければならない仕事なのか、効率化されていく業務としては素晴らしいと思いますが、多少窮屈さも感じてしまいます。

そんな功罪あるネットワーク社会の向上ではありますが、鹿児島と山梨の間ではこのネットワークの向上がもたらした素晴らしい事例があります。新型コロナウイルス感染に社会が慣れてきた2021年に、鹿児島YMCAが山梨YMCAでチアダンスプログラムをリモートレッスンという形で始めることになりました。対象は山梨YMCAの児童クラブに通う小学生の希望者。チアをどうしてもやりたいという高い志があったというよりも、通っている児童クラブのプログラムの一環で興味があるからちょっとやってみようかなという子どもたちだったと記憶しています。なんとなくYouTubeを見て習っているような感覚のリモートレッスン。初めてのことで、プログラム環境の構築や画面から入ってくる情報の整理の仕方など、通常のレッスンにはない難しさがありました。それでも、チアダンスが楽しいという子どもたちの参加意欲となる気持ちはちゃんと「みつかる」ことができました。

通常のレッスンに加え、発表する場がないので、チアダンスの大会のハーフタイム(審査部門外)の場を活用しました。初めて出会うチアリーダーたち、そして普段はリモートでレッスンしている指導者との対面の時間。画面を通してやり取りしていた世界が、出会うことでつながっていく瞬間とその成長を目の当たりにしてきました。

ハーフタイムではグッドスピリット賞という特別賞が設定されています。頑張るため、成長した証としてグッドスピリット賞を目標として、毎年チアリーダーとしての技術とマインドを磨いてきました。そして2025年2月、挑戦すること3回目にしてこのグッドスピリット賞を受賞することができました。コロナがもたらした新しい関係の中で、子どもたちは頑張る目標と楽しさを「みつけ」、離れていても「つながっている」ことを大切に、この3年間で着実に技術もスピリットも「よくなっている」ことの証となる賞をいただくことができました。

最初からリモートで続けていけるの？リモートで学びは難しいのではないかな？子どもたちにとっては対面がやっぱり良いのではないかな？様々な意見を頂戴しましたが、大人が知恵を絞り、状況を悲観してあきらめることなく、不便さを一緒に乗り越えてきた結果、対面以上に強い絆と大きな学びが生まれたように思います。きっと「みつかる」、「つながる」、「よくなっていく」の成果は自分たちの気持ち次第なのかもしれないと山梨YMCAの子どもたちに教えてもらいました。

つなげよう地域と世界 YMCAとともに
Connect Local and World with YMCA

暦の上ではまもなく立春となりますが、1月半ば頃から本格的な冬将軍が到来し、寒い日々が続いております。今年はインフルエンザが猛威を振るっておりますので、皆様体調管理には是非ともお気をつけください。1日には三浦克文ワイズ(岡山)、そして3日には神谷尚孝ワイズ(和歌山)がお亡くなりになりました。長きにわたりYMCA、そしてワイズへ多大なるご献身を頂いた事に感謝を申しあげ、共に過ごした思い出を偲び、心より哀悼の意を捧げます。

年始から悲しいお知らせが続きましたが、松の内を過ぎ新年会も多く開催されました。13日には阪和部・中西部の合同新年会が、200名近いメンバーが集い賑々しく開催されました。また25日にはびわこ部の新年交流会が開催され、大変心嬉しい報告もなされました。1月から多くの皆様と有意義な交流を持つことができ、後期に向け英気を養う事ができました。

また、1月17日には阪神淡路大震災発生から30周年を迎えました。18日神戸で開催のYYYフォーラム、また同日『倉敷自然の家』でのYYYフォーラムにおいて、震災や自然災害について語り、考える時間が持たれました。岡山のフォーラムは1泊での開催でしたが、多くのユースリーダーやキャンパーとも存分に交わりを持つプログラムもあり、ワイズ参加者にとっても、自然の中での学びと体験を満喫する有意義なひと時でした。

さて、2月に入り6月の西日本区大会、そして8月熊本でのアジア太平洋地域大会がいよいよ近づいてまいりました。本日2月1日から、両大会の登録が一斉スタートいたしました。この両大会には皆様是非とも奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

また、3月15日には西日本区の各種献金締切りとなります。各クラブにおかれましては、西日本区事業目標の達成に向け、今一度それぞれの献金の目的や用途についてクラブ内での共有と理解促進を実施して頂けるようお願いいたします。2月は特にTOF強調月間です。TOFは国際への送金となりますが、2024年度は東日本区からの不登校児の支援プログラムに関する申請が国際より承認され、現在プログラムも実施されております。世界的友好団体として、災害支援やユース支援、そして様々な今日的な社会課題にも寄り添いながら、大胆に、信念をもって奉仕活動ができるよう皆さまのご協力と更なる意識の向上をよろしくお願いいたします。

ワイズメンズクラブ西日本区 国際・交流事業委員会 ・ 拡大事業委員会 in 鹿児島及び DBC 活動報告

鹿児島クラブ 中堀 清哲

今期の次期会長主査研修会(2024年3月)の国際・交流事業委員会の主任・主査会の場に於いて、私(中堀)が「2021ー22年間に主任をお受けした折はコロナ禍真っ最中で不完全燃焼でしたから九州部主査は懸命に務めたい」と抱負を述べました。山田主任はこれを受けられて、事業委員会とiGo 実現に向けた集中討議を鹿児島で開催したいと提案されました。集中討議は過去に国際・交流事業主任経験者が集まっていたの拡大委員会です。9月の京都部部会に私と松永ワイズが参加の折、懇親会の席で山田主任と協議中に京都ウェルクラブの中村ワイズさん方も一緒でしたので、「DBC活動も合わせてやりましょう」ということになりました。(飲んだ勢いがあったかも・・・)そうして、2月1日に実現したのです。13時から事業委員会と15時半から拡大事業委員会がサンエール鹿児島に於いて開催。拡大会議には鵜丹谷西日本区理事をはじめ、主任経験者5名が参加。「iGo」についての現状認識と実現に向けての討議がなされ、情報共有がなされました。18時から懇親会。鹿児島黒豚しゃぶしゃぶの有名店「八幡」に鹿児島クラブの4名(徳田、松若、新内、松永各ワイズ)と京都ウェルクラブから松田会長、中村ワイズご夫妻が加わり総勢16名となりました。石田由美子ワイズ(宝塚クラブ)も参加でしたのでこちらもDBC活動になりました。薩摩料理に舌鼓を打ちながら、会話が弾みました。



二次会は天文館の「芙蓉」というお店に移動しました。ここは私とメネットにご縁を与えて下さった母(的)が経営するアットホームなお店。そのメネットも手伝ってくれまして、二次会はさらにボルテージが上がり、親睦を深める事が出来ました。大変充実した交流、学び多き集りになりました。

今月の樹 ヒイラギナンテン

トウナンテンともいう。江戸時代に渡来し、庭木としてよく植えられてきた。ナンテンのような枝振り、ヒイラギのようなトゲのある葉から、この名前が付いたものであろう。

早春に(通常3ー4月)黄色い可愛い花を付ける。この花の面白いところは、雌しべの根元を爪楊枝か松の枯れ葉でつついてやると、周りの雄しべがペタリと雌しべにくっついてくるところである。学名はMahonia japonicaで、ナンテンと同じメギ科でヒイラギナンテン属である。果実は7mm程の球状で、9ー10月に黒紫色に熟す。



1

January

1月新年例会報告

日時：令和7年1月28日(火) 19:00～21:00

場所：ホテルタイセイアネックス

出席者：17名

司会者：松永ワイズ

今月の聖句

愛する者よ。悪にならないで、善にならないさい。善を行う者は神から出た者であり、悪を行う者は神を見たことのない者である

ヨハネの第3の手紙 11章1節

1月例会の記録

クラブ在籍者	9名
出席者	7名
メネット	0名
コメット	1名
ゲスト	9名
ビジター	0名
メイクアップ	0名
1月出席率	189%

鹿児島ワイズメンズクラブ
WEBサイトはこちら▶



山梨YMCAチアの快挙

リモートでレッスンしている山梨YMCAチアダンススクールのメンバーが、チアダンスの大会であるUSA静岡大会のハーフタイム部門で出場、見事グッドスピリット賞を受賞しました。彼女たちの困難にも負けない堂々とした大きな演技にたくさんの拍手が集まりました。



ピンクシャツデー推進運動

2月26日(水)のピンクシャツデーにあわせて、鹿児島YMCAのピンクシャツデー実行委員会では、週1回の会議を重ね、鹿児島県、鹿児島市、南さつま市、霧島市、姶良市の教育長を訪問し、学校現場での協力をお願いをしました。また2月17日には塩田県知事、18日には下鶴鹿児島市長を表敬訪問し、ピンクシャツデー推進をお願いをしました。その模様は各メディアで報じられました。
【※下記のQRコードから映像をご覧ください。】



鹿児島YMCA 新内 博之